

花きの県別生産出荷概況(7月見通し)

令和3年6月30日現在

出典:花き流通情報連絡協議会資料

品目	県名	作型	主要品種	出荷期	作付面積 ha	出荷見込み		7月のピーク(%)			主産地	作柄及び概況
				期間		出荷総数 千本	京浜地域向 千本	上旬	中旬	下旬		
				(ピーク)	(前年比)							
バラ	青森		サムライ アバランジェ	周年 (7~8月)	0.58 100%	205 101%	175 101%	30	30	40	JA津軽みらい	【津軽地区】 4月の低温の影響で生育は遅れ気味だったが、6月に入り夜温が上がっていることから、平年並みの7月下旬から8月上旬にかけて出荷ピークとなる見込み。
	茨城	施設	アヴァランチェ サムライ ほか	周年	8.0 100%	430 100%	710 95%	40	30	30	古河市 石岡市 茨城町	・生育は平年並み。 ・病害虫の影響は特になし。
	静岡	周年	サムライ オール4ラブ ベイブ シンディ	周年 (4~6月)	1.3 96%	900 109%	650 110%	30	40	30	JA掛川市 JAしみず JA大井川 JA静岡市	気温上昇も緩く、まだ70cm級の出荷が多め。ボリュームは減少傾向だが、病害の発生は少ない。各地出荷の波が重なっており、増減を繰り返しながらの出荷となる見込み。
アルストロメリア	北海道	周年	アイスクリーム アバランジェ アーロン レモネード	周年 (5・10月)	695 96%	4,247 93%		50%	30%	20%	JAいわみざわ 岩見沢市	出荷数量日量 150ケース前後
	青森	周年	オルカ アルーラ ピンクサフライス	周年 (5~8月)	1.92 100%	1083 109%	789 109%	30%	30%	40%	JA津軽みらい JAつがる弘前	【津軽地区】 5月中旬以降の価格低迷から一部生産者で出荷調整が行われた。摘芯や切り戻しにより、7月から8月にかけて出荷は増加する見込み。
トルコキキョウ	北海道	促成~	ハピネスホワイト	8~11月	2,080 99%	3,201 108%		0%	0%	100%	JAそらち南 由仁町	例年よりも圃場全体の生育状況が揃っており、生育は非常に順調と言える。出荷始めは6月14日で平年並み。出荷量が増えてくる時期も平年並みを見込んでいる。
			モンロー	8~11月				0%	0%	100%		
			モアナLP	7~10月				0%	0%	0%		
マキアLP			7~8月				20%	40%	40%			
青森			ホクトセイ ボヤージュ ロジーナ	6月~11月 (9月)	4.73 99%	869 114%	558 114%	20	30	50	JAつがるにしきた JA津軽みらい JA八戸	【津軽地区】3月定植分は6月下旬から出荷開始見込み。病害虫等も散見されず、生育は順調。 【県南地区】4月の低温の影響で、草丈が短いものが散見されるが、概ね順調。例年並みに7月上旬から出荷開始見込み。
千葉	施設			4~8月 (6月) 10~12月 (11月)	7.0 103%	400 108%	300 108%	35	35	30	館山市、鴨川市、南房総市(丸山・千倉)	・生育は順調だが、一部の品種で花蕾の上がり早く、生育が前進傾向である。 ・6月に引き続き多品種が出荷される見込みで、覆輪主力品種のロジーナブルーピコティーが6月下旬から出荷予定である。6月下旬から7月上旬が出荷ピークの予定。

花きの市場別販売概況(7月見通し)

令和3年6月30日現在  
 出典:花き流通情報連絡協議会資料

品目		販売における現状と今後の見通し	
バラ	見通し	現状	暖地、高冷地共に中旬より出荷量が増加し、相場も軟調となった。父の日に黄色・オレンジの引き合いが一時出てくるが、他の需要も無く、厳しい販売状況となった(大田)。STは暖地が減らず全国より潤沢な入荷。多少のブライダル需要。大きな需要はなく保合相場(FAJ)。STについては、中旬まで暖地がある程度残り販売苦戦した(第一花き)。業務需要少なく低調。父の日前に多少動きあった(世田谷)。天候不順により各産地例年より10日前後生育が遅れたため、出荷量の重なりがある。需要の閑散期ということもあり荷動きは鈍めで相場はもちあひから弱もちあひの展開(東日本板橋花き)。イベントで黄バラの動きはあったがさほどでもなく引き合い弱い(東京フワフワポート)。
		大田花き	気温上昇から6月以上に販売厳しくなる見込み。暖地では休みに入る産地も出始める。
		FAJ	暖地から高冷地へ産地の切り替えが進み、多少数は落ち着く見込み。中旬に相場のピーク。
		第一花き	産地の切り替え時期で数量は落ち着いてくる。
		世田谷花き	高冷地産中心に潤沢。引き合いは弱い。
		東日本板橋花き	入荷量は各産地しばらくの期間潤沢の見込み。今後高温期に入るため品質には十分注意していきたい。販売は入荷量と需要次第だが保合い～弱保合いの相場展開の見込み。
		東京フワフワポート	山形産中心の入荷となり現状出荷産地も潤沢な入荷見込み。
アルストロメリア	見通し	現状	各産地、数量まとめ、堅調な取引となった。中旬以降、暖地からの出荷量減少し、相場が底上げされた。葬儀需要中心に、白の引き合いが強まった(大田)。長野、山形中心の入荷。数量は平年並み。需要期ではないものの堅調相場を維持した(FAJ)。愛知産は激減。長野、山形中心だが数量は少なめ(第一花き)。長野県産そこまで減らず、安定出荷。北海道産増えてきた(世田谷)。愛知、青森、北海道中心の入荷。昨年並みの出荷量(東日本板橋花き)。月前半入荷多く販売苦戦、中頃暖地産急減で価格も安定(東京フワフワポート)。
		大田花き	愛知、長野は出荷量が減少。北海道中心の入荷となる。葬儀需要・ブーケメーカー中心の引き合いとなる。
		FAJ	山形、長野、岩手からの入荷、数量は平年並み。葬儀需要の他、新盆、イベント需要を見込む。
		第一花き	6月と状況はさほど変わらず。ただ需要は葬儀需要のみ。
		世田谷花き	入荷微減して推移。
		東日本板橋花き	愛知、青森、北海道中心の入荷。昨年並みの出荷量の予定だが、天候次第で入荷増減あり。
		東京フワフワポート	6月に増加傾向であったためやや少なくなる見込み。
トルコギキョウ	見通し	現状	曇天、低温の影響から千葉、茨城が若干の生育遅れ。暖地は梅雨入りが早かったことから2番花が大きなピークなく、だらだら出荷となった(大田)。栃木中心に全国より入荷。前半は数量減だが中旬以降暖地微増で回復。落ち着いた相場となった(FAJ)。暖地・高冷地があり数量が多く販売苦戦した(第一花き)。千葉・福島・長野県などから各色入荷。熊本・高知県の2番花が中旬で終了。品質や価格差が大きい(世田谷)。暖地が終了し、中旬から後半にかけて減少傾向(東日本板橋花き)。高冷地の遅れもあり前半は堅調な値動き、現状落ち着く(東京フワフワポート)。
		大田花き	上旬は、千葉が数量のピークを迎える。長野、山形、福島と夏の産地も出揃ってくる。
		FAJ	福島、宮城、山形、長野など高冷地中心の入荷。例年並みの数量となる見込み。
		第一花き	暖地が徐々に終わってきており、数量は落ち着いている。
		世田谷花き	千葉・長野・福島県などからの入荷。春先の低温で遅れていたものも、咲き揃い潤沢。
		東日本板橋花き	福島・千葉県産が増えてくる。昨年並みの出荷量を予定している。
		東京フワフワポート	上旬から福島、山形、長野増加昨年並みの入荷。
りんどう	見通し	現状	上旬より、栃木は例年と比べ安定した出荷量となる。岩手は昨年とスタートは一緒、同じくらいの数量となり、長野はやや少なめで推移した。秋田は中旬より出荷スタート(大田)。栃木県産主体も、長野・群馬・山形・岩手県産早めに始まる。安定相場(世田谷)。露地物が始まり日々増加、価格も堅調(東京フワフワポート)。
		大田花き	7月盆向けには5日納品より栃木・岩手・秋田中心の納品となる。7月全体の数量は昨年並みか若干少ない見込み。下旬より岩手の長期予測も始まる。
		FAJ	岩手、秋田、栃木より入荷予定。相場のピークは上旬で、下旬にかけて数量は増加する見込み。
		世田谷花き	東京盆に栃木県産まとまらない見込み。各産地出回り増える。
		東京フワフワポート	若干の前進もみられるが盆需要は潤沢な入荷予想。